2024年度工学総合研究所紀要第13号発刊にあたって

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 東北学院大学工学総合研究所 公開日: 2025-04-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土井, 正晶 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/2000569

2024 年度　工学総合研究所紀要第 13 号発刊にあたって

東北学院大学工学総合研究所
所長　土井正晶

文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業の一つであるハイテク・リサーチ・センター整備事業と既存の環境防災工学研究所を統合し、ナノ材料工学研究部門、防災・安全工学研究部門及び環境・バイオ工学研究部門の 3 研究部門と 1 つの事務部門とで発足した工学総合研究所に、2014 年度より情報・通信工学研究部門を加え 4 研究部門と 1 つの事務部門になってから引き続き紀要を発刊しております。

工学総合研究所の業務は、研究が第一であることは当然でありますが、地域への貢献も重要な業務であります。一例として、工学と市民社会の接点をテーマとした公開講座を開講する一方で、多賀城市立東豊中学校の 3 年生を対象に理科の楽しさを知ってもらうために、半日大学で新しい科学技術に触れてもらう活動も行っております。2024 年度には東北学院中学校の 3 年生への啓発活動も施行しました。また以前に、文部科学省の委託事業として採択された「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム（テーマ：２１世紀のキーテクノロジーを学ぶ）」を多賀城市教育委員会と共催し、宮城県内の小、中学校及び高等学校で理科の授業を担当している先生約６０人に最新の科学を体験して頂きました。この企画が好評であったことから、本学地域連携センターの支援の下、“２１世紀のキーテクノロジーを学ぶ Ⅱ”を多賀城市教育委員会との共催で 2013 年度から再開いたしました。2025 年度は新たに「２１世紀のキーテクノロジーを学ぶⅢ」と題し、さらなる工学の発展に努めて参ります。

また、研究所に日々積み上げられてゆく知を地域へ公開・還元することも大きな業務であります。そのために、科学技術に関するトピックスの講演会とポスターセッションからなる公開シンポジウムも年度末に開催しております。さらに、研究所内の行事としてはそれぞれの部門より最新の研究結果の発表を行い、研究員同士の切磋琢磨の場としております。この報告書は、上に述べた工学総合研究所が 2024 年度に行った行事の資料を網羅したものであります。改善点等がございましたら関係各位のご意見等賜れば幸いです。

工学総合研究所は今後も、研究所に所属する研究員一同、本来の業務である研究活動に邁進することはもとより、これまでと同様、地域の発展と人材の育成に貢献すべく努力する所存でありますので、今後とも工学総合研究所の発展と充実のために、大学はもとより、関係各位のますますのご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。